

平成 22 年 3 月 28 日

平成 21 年度 学校評価について

I 学校自己評価

1 学校教育自己診断（教職員用）

＜結果＞「100 点換算で、H20 年度 67.6 点、H21 年度 70.6 点 とアップした」

※ 別紙参照

2 学校教育自己診断（生徒用）から

＜結果＞「100 点換算で、H20 年度 82.3 点だったものが、H21 年度 79.2 点であり、3.1 ポイントダウンしている」

＜分析＞

- ・ 100 点換算の全体平均が下がっているものの、依然として 80 点前後の高い評価となっている。
- ・ H20 年度卒業生である 1 期生は、入学年度から自分たちを中心に学校教育が運営されており、充実感が高かったが、H21 年度入学の 4 期生は、8 学級 64 人定員に増加し、施設等の関係から授業は 10～11 人で受けており、各生徒が「見てもらっている」という感覚が 1 期生に比べると下がっていると考えられる。

3 学校教育自己診断（保護者用）から

＜結果＞「100 点換算で、H20 年度 87.0 点だったものが、H21 年度 86.1 点であり、0.9 ポイントダウンしている」

＜分析＞

- ・ 100 点換算の全体平均が微減したものの、保護者の評価は高い状態が続いている。
- ・ 評価が一番低かった設問「子どもは、積極的に部活動に参加している」では、部活動に参加している生徒の保護者の評価は高かったが、参加していない場合には、「D：まったく当てはまらない」と回答されるので大きく下がってしまっている。

4 授業参観アンケートから

(H21. 5 月、7 月、12 月の 3 回実施)

＜結果分析＞

生徒の成長した姿を見て感動される等、肯定的意見が多い一方、教員の授業の進め方には要望があった。

これらについては、アンケートの全内容を「校長だより」にまとめ、全教員に配布し、情報共有して改善にあたった。

5 事業所学校見学会アンケートから

(H22. 2. 3 実施 11 事業所から参加)

<結果分析>

採用担当者の方々に実際に見学していただき、本校の教育活動について理解が深まった。また、そのことによって、職場実習の受け入れや就労について、明確に意思表示されるケースが相次いだ。

II 学校関係者評価

I の内容を学校協議会に提示し、次のような評価を得た。

- ・ 保護者や生徒の回答率と比べると、教職員の回答率が低い。
- ・ 自分でまず改善していくものであるから、本来は高くなるものであるが・・・。
- ・ 回答の母数が昨年度より 1 割程度増えているので、昨年度との比較でのポイントの低下はあまり意味がない。それほど下がっていないのではないか。
- ・ 教職員のポイントの上昇は、仕事に対する責任感、自負の表れではないか。
- ・ 保護者の回答で、「個別の指導計画の開示」のポイントが下がっているので、さらに連携が必要である。
- ・ 卒業式のあとの HR をみても、先生との距離が近く、すごくいい。人数増は仕方がないが、難しい問題である。
- ・ 自己診断の結果等がどう反映されているか、アンケートの結果もこうなったなど、保護者に知らせてほしい。

平成21年度学校教育自己診断

教職員回答(回答36名、59.0%)

(H20回答35名)

全体平均 H21 2.82 (100点換算: 70.6点)
H20 2.70 (100点換算: 67.6点)

I 教育活動に関するもの

	H20		H21		
	平均	平均	平均	平均	
1	3.2	3.3	3.2	3.3	教員は生徒の意見をよく聞いている。
2	2.8	3.0	2.8	3.0	指導内容については、生徒の実態に合うように、教職員間で話し合いがもたれている。
3	3.2	3.2	3.2	3.2	教科指導(普通教科、専門教育に関する教科)に当たっては、生徒が興味をもって主体的に取り組めるよう工夫している。
4	3.0	3.1	3.0	3.1	生徒指導に当たっては、生徒の実態や意見を十分に踏まえて行っている。
5	3.2	3.4	3.2	3.4	生徒指導において、家庭や関係機関との連携をしながら行っている。
6	3.1	3.3	3.1	3.3	生徒会の運営と活動が自主的にできるよう、教職員が積極的に工夫や支援を行っている。
7	2.9	3.0	2.9	3.0	体罰やセクシュアル・ハラスメント、いじめの防止をはじめ、すべての教育活動において、人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導が行われている。
8	2.8	3.0	2.8	3.0	個別の指導計画、教育支援計画について、教職員の共通理解、保護者の理解を図りながら策定されている。

II 学校経営に関するもの

9	3.0	3.0	3.0	3.0	校長は学校の課題や学校運営についての考え方を明らかにしている。
10	3.1	2.8	3.1	2.8	学校運営に、校長のリーダーシップが発揮されている。
11	1.8	2.2	1.8	2.2	学校運営に、教職員の意見が反映されている。
12	2.3	2.5	2.3	2.5	各分掌や各部・学年間の連携が円滑に行われている。

III 学校教育改善のための提案

① 学校教育をよりよいものにするために、こうすればいいというご意見がありましたら、次の欄にお書きください。

- ・ 学年や学科での指導観、生徒観の違いや、情報共有の遅れを解消していきたい
- ・ 教員のバランスよい配置(教科、年齢等)
学級編成について、やはり学科を越えた編成を希望する。生徒同士の交友関係面、学年の教員全体で、学年の生徒を見ていくという体制が、より作りやすいと思われる。2年間生徒のメンバーも担任教員もほとんど変わらないというのは貴重な3年間を縛っていることになると感じる
- ・ 学校全体で業務の偏りが著しいです。分量も、重みも限界まで引き受けてる状態でつらいです。他の人に引き継いで後進を育てる余裕がないために、この傾向は不可逆的に増大する一方になっています。今後の異動によっては、運営に支障が出ないか不安。
- ・ 教材準備や分掌業務に忙殺され、最低限の情報交換以外なかなか時間がとれない。ゆとりを持って授業等々に取組めよう、持ち時間数の軽減が必要ではないか
そのためには教員数の増が考えられるが、なかなか今の財政状況では難しい
- ・ 担任ばかり仕事に固まっているので、クラス付きや講師の先生方にも仕事が回ってくる様にした方がよい。その方が仕事の能率も上がると思います
- ・ 学校の役割を明確にし、全部引き受けてしまうのではなく、他の機関にまかせる部分はまかせていくようになればよい
- ・ 生徒の教育に教員が本腰を入れる体制の構築が必要
- ・ 施設・設備・教員配置を考えると、8クラス募集6クラス展開、1クラス10~11名という4期生・5期生の教育を保障するのは無理です。府教委に改善を強く要求すべきです
- ・ 技能や知識などを伝達することに重点が置かれ、障がいや生徒の実態、家庭環境などを考えながら指導することができていない
「就労を目指す」事ばかりを追い求め、本来の支援学校のあり方からあまりにもかけ離れた現状を見直すべき

② この学校教育自己診断票について、お気づきのことがありましたら、次の欄にお書きください。

- ・ 設問がもっと多くても良いのでは？(前職場は3枚以上で冊子になっていました)

	H20		H21		
	平均	平均	平均	平均	
13	2.1	2.5	2.1	2.5	職員会議をはじめ部会や学年会が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している。
14	2.4	2.6	2.4	2.6	日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができています。
15	2.8	3.0	2.8	3.0	事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている。
16	2.3	2.9	2.3	2.9	学校予算は一定のルールに基づき、適切に編成・執行されている。
17	2.7	3.0	2.7	3.0	生徒がのびのびと学校生活を送る教育環境が整備されている。
18	3.0	3.1	3.0	3.1	施設・設備について日常的に点検や管理が行われている。
19	2.7	3.0	2.7	3.0	コンピュータ等の情報機器が、各教科の授業などで活用されている。
20	3.0	3.3	3.0	3.3	校内研修組織が計画的に実施されている。
21	2.7	3.0	2.7	3.0	校内研修が計画的に実施され、教育実践に役立つ内容となっている。
22	1.7	2.0	1.7	2.0	初任者や経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている。
23	2.3	2.3	2.3	2.3	教員の間で授業方法等について検討する機会を持っている。
24	1.9	2.1	1.9	2.1	府教育センター等が主催する研修に計画的に参加することができる。
25	2.3	2.4	2.3	2.4	研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝えている。
26	2.6	2.6	2.6	2.6	保護者や地域の人々と接する機会がある。

